

---

# 十五歳の見た夢

小宮つばさ

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

十五歳の見た夢

### 【Nコード】

N8149A

### 【作者名】

小宮つばさ

### 【あらすじ】

不思議な夢をみる十五歳の”私”。その夢の中で出会う小さな女の子。そしてもう一人、三十歳くらいの背の高い男性。この二人は、私の”知らない人”だった。

聞いてください。聞いてください。  
これは私が一五歳の時の話です。

深い深い…でもとても明るい空間の中、私はいました。  
それが夢だと気づくのに、以外にも三ヶ月かかりました。  
不思議な空間の中、いるのは私と、小さな女の子。  
腰あたりまで伸ばした黒髪が、とても目立つ女の子です。  
いつもいつも、無邪気な微笑みで私を見えています。  
私がこれを夢だと気づいてから、この空間で自由に動けるようになり  
ました。

ですから私は聞いたのです。

「あなたはだれ？」

…と。

最初、女の子は答えませんでした。  
それでも、どうしても気になり、私は聞いたのです。  
すると、女の子はこう答えました。

「知らない人」

何を言っているか分かりませんでした。

ですから私はまた聞きました。

女の子はまた答えます。

「あなたの知らない人」

知らないから聞いているのに、そう言われてしまっでは…と首を  
ひねった時です。

いままでその空間にいなかった人が現れました。

三十歳くらいの、背の高い男の人。

男の人は女の子の隣に並び、言いました。

「この子は、君の知らない人だよ」

そう言われたので、私は聞きました。

「では、あなたはだれ？」

男の人は答えます。

「君の知らない人さ。まだね」

そこで、私は夢から覚めました。

夢にしてはあまりにもはっきりしている夢。

それから何度も、その夢を見たのです。

ある日、母との会話の途中、変な夢を見ると言ってみたのです。すると母は嬉しそうに目を細め、言ったのです。

「そう。あんたも、その夢を見る年になったんだね」

どういうこと？と私は聞きました。

すると、

「いつか…いつかわかるよ」

と優しく微笑んだだけでした。

十年後、私は結婚し、子供も生まれました。

そして、あの夢を見なくなりました。

はたして、いつから見なくなったのか…

あの夢を見なくなったと気づいたのは子供の五歳の誕生日。

誕生日プレゼントに、素敵な思い出をあげようと、遊園地へ連れて行ったのです。

「ママ！次、メリーゴーランド！」

舌足らずな喋り方で、私におねだりをしてくるわが子は、誰かに似ているような気がしました。

娘はメリーゴーランドの方へ走って行き、夫が追いかけてきました。一人で走っては危ないと、娘の腕をとって夫が娘を止めました。

そして、娘は振り向いたのです。  
無邪気な、笑顔で。

そして隣には、背の高い夫が。

… ああ、そうか…これだったんだ…

私は気づいたのです。

そう。この光景は、

そして、その十年後。

娘がこんなことを言い出したのです。

「ねえ。おかあさん。最近、変な夢見るの」

そう。あなたも、その夢をみる年になったんだね。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n8149a/>

---

十五歳の見た夢

2010年11月29日18時37分発行